

えいらい

No.35

平成 30 年 4 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

新しい仲間を 迎えるにあたって

副院長（内科・消化器内科）
水上 祐治



2月下旬から気温の高い日が続き、松山では平年より6日、昨年より11日早く桜の開花が発表されました。病院近くの南堀端の桜も満開となり、散策する人の目を楽しませてくれました。

さて、今年度も新入職員を大勢迎えることができました。長い学校教育の間に培った知識や実習を、実社会で生かそうと意欲に溢れていると思います。

その一方で、勉強するだけで良かった学校と病院勤務とのギャップは大きく、緊張感もあるかと思います。皆さんに早く職場に慣れていただくために仕事の一部を紹介いたします。

病院職員は、「患者さんに良い医療を提供したい」という共通の目標を持っています。私たちが日々の医療行為を行うには、専門的知識・技能、資格が必要であり、その修得には長い時間がかかります。

しかし、一旦、あるレベルに達すると自立的、裁量的に仕事をすることが可能となり、熱心に働けば、熟練度はどんどん高まります。一般的に、このようにして獲得した専門的職業能力は高い持続力を持ち、年を取ったからといって、あるいは体力が落ちたからといって衰えるものではない、と言われていています。

たとえば、医師は、医学部教育 6 年間、卒後臨床研修 2 年間、専門研修 3 年間が必修とされ、その後、更にサブスペシャリティ専門研修、生涯学習へとつながります。そのようなプログラムの中で、患者さんの診断、治療を多く経験しながら、真摯に対応し、フィードバックを続けていけば、臨床能力は必ずと

高まります。標準的医療レベルに達し、維持するには多大な労力、研鑽が必要ですが、努力に見合った結果がついてきます。他の職種でも同様です。

ところで、仕事は教科書通りにはいきません。失敗したり、予期せぬことが起こったり様々なことがあります。先輩の力を借りて乗り越えて下さい。当院には多くの実習生、初期研修医、新人看護師らが学び、働いており、地域の教育病院（community-based teaching hospital）としての役割が期待されています。

先輩職員は、かつて自分がしてもらったように、まだ未熟な若手職員を辛抱強く、叱咤激励しながら立派に育て上げることが大切だと認識しています。現場での「On the Job Training」は欠かせませんが、それだけでは限界があります。

育成は、病院全体で取り組むべき重要な事柄であり、各種講習会を開催し、資格取得への支援も用意しております。病院は今年のスローガンとして、「ハードからソフトへ」キーワードは育成、成長、貢献」を掲げました。「人材育成、自己成長、社会貢献」につながる想いを込めて新しい仲間を迎えました。私たちは、皆さんの社会人生活がスムーズにスタートできるように応援します。

仕事と生活は必ずしも対立するものではありません。充実した仕事は、趣味を楽しんだり、各人好みの豊かな生活に導いてくれると思います。

新入職員の皆さんの希望が花開くように祈念いたします。頑張ってください。



撮影：総務課／河野 桂治（伊佐爾波神社 境内への石段）